

第3回日本クリエイティブ・アーツセラピー学会学術大会

# クリエイティブ・アーツセラピーにおける境界： 臨床の視点とコミュニティサポートの視点から

クリエイティブ・アーツセラピーでは、対象者や活動の目的、置かれている立場や役割などによって、提供する側のあり方は多様です。予防と治療、ケアとセラピー、アーティストとセラピスト、その境界はどこにあるのでしょうか。

本大会では、異なる領域で活動中の発表者によるワークショップと分科会を企画し、臨床の視点とコミュニティサポートの視点からクリエイティブ・アーツセラピーにおける境界を考えると共に、その多様な可能性を探る機会となることを目的とします。

9:30 受付開始

10:00-12:00 ワークショップ発表

音楽療法士  
としての「私の境界」  
井上勢津

からだ・動き・感情体験  
から自分を捉える  
ダンス/ムーブメントセラピー  
川岸恵子/成瀬九美/淡野登志

アプライドドラマと  
プレイバック・シアターの  
体験を通して境界を考える  
羽地朝和

12:00-13:00 昼食

13:00-14:00 演題発表 (様々な現場で活用されているクリエイティブ・アーツの事例や活動を紹介します)

倫理：  
あなたはどのように考えますか？  
神宮京子

学校等への参加が  
難しい子ども達との  
アートセラピー  
いちかわ・まさみ/  
なかやま・りさ

地域コミュニティにおける  
表現アーツセラピーの取り組み  
林悦子/飯島波奈

14:00-14:15 休憩

14:15-16:00 全体会 (進行役:天野敬子) [定員:50名]

参加者が一堂に会し、それぞれの体験を分かち合いながら、「境界」そして「クリエイティブアーツ」についてさらに深めていきます。

16:00-17:00 交流会 (参加者同士の交流の時間をもちます)

\*分科会及びワークショップは、朝の受付時に先着順で希望を取ります。定員により、希望の枠に入れられないこともあります。

音楽療法士としての「私の境界」

音楽療法士としての「私の境界」は協力関係にある他の専門職のスタッフとの間だけではなく、クライアントとの間に、そして私自身の中にもあるのではないのでしょうか。今回は、通常、重度心身障害児(者)と行っている音楽療法のセッションを体験していただき、その後、私が何をどのように感じ、そのことをどのような判断に結び付けていたのか、参加された方が何を感じていらしたのかなどをお互いに語りあうことで、セラピストにとっての「境界」とは何かをみなさんと一緒に考えたいと思います。

- 定員：特になし
- ▶井上勢津（東京音楽大学）

からだ・動き・感情体験から自分を捉える  
ダンス/ムーブメントセラピー

瞬時に現われ消える動きと、からだを対象とするダンス/ムーブメントセラピーでは、セラピストは見る・感じる・分析する感覚を養い、個人として自己覚知を深めることが求められます。分科会では、自己研鑽と自己覚知の必要性から我々が定期的に行っているワークを下地としたDMT体験を提供し、依って立つフィールドによる異同や、境界の認識、セラピストの在り方などについて感じていただく機会になればと思います。

※身体接触の可能性あり・動きやすい服装での参加をお願いします

- 定員：10名
- ▶川岸恵子（関西医科大学医療センター精神科デイケア）
- ▶成瀬九美（奈良女子大学生生活環境学部心身健康学科）
- ▶淡野登志（大阪府立急性期総合医療センター）

アプライドドラマとプレイバック・シアターの  
体験を通して境界を考える

精神科クリニックのセラピー、企業研修、学校教育など様々な領域でアートを使ったワークショップを担当してきました。人や場によってファシリテーションは工夫していますが、やっていることの境界はあまり意識してきませんでしたが、今回は「ひとりぼっちのかいぶつといしのうさぎ」という物語を使ったアプライドドラマとプレイバック・シアターのワークを体験していただけます。アートとセラピー、幸せと不幸せ、境界とは何なのか考えてみましょう。 ※身体を動かしやすい服装、履物で参加ください。床に寝転ぶこともあるかもしれません。

- 定員：20名
- ▶羽地 朝和（株式会社プレイバック・シアター研究所）

倫理：あなたはどのように考えますか？

「倫理」とはなんでしょう。構造を守らず契約外の時間に来訪したクライアントに会うのを断った。これは倫理的に問題なのだろうか？セラピストにとって意味あると思われた介入がクライアントを傷つけた。これはむしろ技法の問題なのだろうか？倫理はセラピストに課せられる規則と理解されるべきもの？本学会の倫理綱領作成に従事した中で生まれた「問」を話題提供のきっかけとし、参加者の皆様と共に倫理について考え続ける機会になればと思います。

- ▶神宮京子（特定医療法人群馬会群馬病院）

学校等への参加が難しい  
子ども達とのアートセラピー

学校などの集団への参加の難しい子ども達に対して、発表者2名はそれぞれの領域にてアートセラピーを実践してきた。児童発達支援、子ども家庭支援、訪問支援、学校現場での実践をふりかえり、アートセラピーやアートセラピストの役割について考察します。

また、それぞれ別の国立大学にてアートセラピーの教育に関わっており、高等教育の中でどのようにアートセラピーを根付かせるか、現在の活動を紹介しながら今後の展望を話し合う場を設けたいと思います。

- ▶いちかわ・まさみ（表現アートスタジオいろいろの木）
- ▶なかやま・りさ（ワールドバンク）

地域コミュニティにおける  
表現アーツセラピーの取り組み

①高齢者の介護予防スペースによる介護予防プログラムやこども会食堂、ボランティア・市民活動のお祭りなど、地域における創作アートや楽器演奏等を取り入れた活動について紹介します。

- ▶林悦子（聖隷クリストファー大学大学院）

②地域にひらかれたアトリエにおけるコミュニティづくりの取り組みを紹介します。「絵を描くのが苦手」という方や、アートを専門的に学んだり、プロとして活動している方の持つ抵抗感へのアプローチの工夫など考察します。

- ▶飯島波奈（アトリエアムリタ）

【日時】 2019年10月26日(土)10:00～17:00(開場:9:30)

【会場】 東京大学本郷キャンパス 教育学部 158教室他

【最寄り駅】 本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線・大江戸線)徒歩8分

【参加費】 5,000円(会員) 8,000円(非会員)

【お問い合わせ】 event@jcata.org

【お申込み方法】 ①お名前 ②ご所属 ③ご連絡先(メールアドレス・電話番号) ④会員・非会員

をご記入の上、メール(event@jcata.org)までお申し込みください。参加費のお振込案内をいたします。(事前振込が必要です)

※お振込み後、参加費は原則として返金できません。ご了承ください。

※ワークショップおよび分科会は当日朝の受付時にご選択いただけます。定員により希望のものに参加できない可能性があることをご確認ください。